

対象校No. 79

注4

学校コード F117110105393

注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前相談

注2

金沢大学大学院 自然科学研究科 フロンティア工学専攻 (博士後期課程)

【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人金沢大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	企画評価室
職名・氏名	専門職員 <small>サンモリョクインコジマ</small> 小島 <small>ナオト</small> 直人
電話番号	076-264-5020
(夜間)	076-264-5020
e-mail	g1kikaku@adm.kanazawa-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

自然科学研究科

＜フロンティア工学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人金沢大学

(2) 大学名

金沢大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒920-1192
石川県金沢市角間町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ワダ タカシ) 和田 隆志 (令和4年4月)		
研究科長	(セト タカフミ) 瀬戸 章文 (令和6年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
自然科学研究科 フロンティア工学専攻 博士(工学) 博士(学術)	工学関係	3年	19人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	57人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期														
A 入学定員	人 () []	春季入学以外の学期区分を設ける予定	0.31	-												
志願者数	人 () []															
受験者数	人 () []															
合格者数	人 () []															
B 入学者数	人 () []															
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.31				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1 年次	-	-	-	-	[]	[]	[]	[]	[]	[]	6	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[1]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	()	()	()	()	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	[]	[]	[]	[]	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	()	()	(-)	(-)	
3 年次					-	-	[]	[]	[]	[]	-	-	
					[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	()	()	()	()	(-)	(-)	
4 年次							[]	[]	[]	[]	-	-	
							()	()	()	()	[-]	[-]	
							()	()	()	()	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	[]	[]	[]	[]	[]	[]	6	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[1]	[]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	()	()	()	()	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	人	人	令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	6人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

修了要件及び履修方法

<p>【修了要件】</p> <p>博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、履修方法に定める方法により、10単位以上を修得し、本学が別に定める英語能力の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程及び博士前期課程を修了した者)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】</p> <p>次の要件を満たし、10単位以上修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院GS発展科目から必修科目3単位を含む4単位以上を修得すること。 ・必修科目として、自然科学特別研究2単位を修得すること。 <p><サステナブル理工学プログラムの履修方法></p> <p>サステナブル理工学プログラムは、自然科学研究科全専攻にまたがる分野横断教育として開講する、博士課程5年一貫型の副専攻である。博士前期課程において履修した分野のプログラムを引き続き履修することができる。プログラムを修了するためには、博士前期課程でのプログラム履修に加え博士後期課程では、次の2つの要件を満たさなければならない。</p> <p>(1) プログラム共通科目から2単位以上修得すること。ただし、環境・エネルギー理工学分野を履修する学生は、国際プレゼンテーション演習の2単位を含むこと。</p> <p>(2) プログラム専門科目の当該分野の科目から1単位以上修得すること。</p>

修了要件及び履修方法

<p>【修了要件】</p> <p>博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、履修方法に定める方法により、10単位以上を修得し、本学が別に定める英語能力の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程及び博士前期課程を修了した者)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】</p> <p>次の要件を満たし、10単位以上修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院GS発展科目から必修科目3単位を含む4単位以上を修得すること。 ・必修科目として、自然科学特別研究2単位を修得すること。 <p>・基礎科目の科目群から2群を選択し、選択した群から各1単位以上、計2単位以上を修得すること。</p> <p>・先履科目の分野から1分野を選択し、選択した分野から2単位以上を修得すること。</p> <p><サステナブル理工学プログラムの履修方法></p> <p>サステナブル理工学プログラムは、自然科学研究科全専攻にまたがる分野横断教育として開講する、博士課程5年一貫型の副専攻である。博士前期課程において履修した分野のプログラムを引き続き履修することができる。プログラムを修了するためには、博士前期課程でのプログラム履修に加え博士後期課程では、次の2つの要件を満たさなければならない。</p> <p>(1) プログラム共通科目から2単位以上修得すること。ただし、環境・エネルギー理工学分野を履修する学生は、国際プレゼンテーション演習の2単位を含むこと。</p> <p>(2) プログラム専門科目の当該分野の科目から1単位以上修得すること。</p>
--

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・ 担当教員の変更により、「数理・データサイエンス・AI発展」を「兼担2」に変更。
- ・ 全学的な大学院教育改革に伴い、「ジョブ型研究インターンシップ」の区分を「専攻共通科目」から「大学院GS発展科目」に変更。
- ・ 担当教員の追加により、「自然科学特別研究」の「教授13、准教授11、兼担4」を「教授14、准教授12、兼担5」に変更。
- ・ 授業内容をより明確にするため、「技術経営論」の科目名を「ビジネス・技術マネジメント戦略論」に変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度 (令和5年度開設であれば令和4年度以前) の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	32 科目	21 科目	57 科目	4 科目 []	32 科目 []	21 科目 []	57 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考		
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 センター新設のため (6)		
	校舎敷地	728,946 m ² 844,686 m²	0 m ²	0 m ²	728,946 m ² 844,686 m²			
	運動場用地	115,740 m ²	0 m ²	0 m ²	115,740 m ²			
	小計	844,686 m ² 960,426 m²	0 m ²	0 m ²	844,686 m ² 960,426 m²			
	その他	1,562,710 m ²	0 m ²	0 m ²	1,562,710 m ²			
	合計	2,407,396 m ² 2,523,136 m²	0 m ²	0 m ²	2,407,396 m ² 2,523,136 m²			
(2) 校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	284,147 m ² (284,147 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	284,147 m ² (284,147 m ²)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 教室等用途変更・整理のため (6)		
	182室 183室	305室 307室	954室 946室	13室 (補助職員 0人)	6室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室数			専任教員増加のため (6)		
	自然科学研究科 フロンティア工学専攻		27 25 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位で特定不能のため、大学全体の数量 購入・廃棄等のため (6)
	自然科学研究科 機械科学専攻	1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	43,587 [15,888] 43,180 [15,736]	10,409 [8,826] 10,710 [9,166]	8,397 8,376	10,605 10,104	212	
		1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	43,587 [15,888] 43,180 [15,736]	10,409 [8,826] (10,710 [9,166])	8,397 8,376	(10,605) (10,104)	(212)	
	計	1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	43,587 [15,888] 43,180 [15,736]	10,409 [8,826] 10,710 [9,166]	8,397 8,376	10,605 10,104	212	
		1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	43,587 [15,888] 43,180 [15,736]	10,409 [8,826] 10,710 [9,166]	8,397 8,376	(10,605) (10,104)	(212)	

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体 座席レイアウト再編のため(6)		
	19,794㎡		2,116 2,076		1,644,514 1,633,859				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	6,295㎡		可動屋根付プール (1,193㎡)		弓道場 (162㎡)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	金 沢 大 学						収容定員充足率 0.7倍以下 の学科数	0	収容定員充足率 1.15倍以上 の学科数	1		
	既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度			
融合学域			165	3年次 40	450		0.95	-				
先導学類	4	55	3年次 25	270	学士 (学術)	0.87	-	-	令和3	石川県金沢市角間町		
観光デザイン学類	4	55	3年次 15	105	学士 (学術)	1.05	-	令和5 令和6	令和4	同上	令和5年度入学定員変更 (5) 令和6年度入学定員変更 (35)	
スマート創成科学類	4	55	-	75	学士 (学術)	1.08	-	令和6	令和5	同上	令和6年度入学定員変更 (35)	
人間社会学域			668	-	2,617		1.09	1.03				
人文学類	4	138	-	555	学士 (文学)	1.11	1.04	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更 (△4) 令和4年度入学定員変更 (△3)	
法学類	4	150	-	615	学士 (法学)	1.06	1.01	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△10) 令和4年度入学定員変更 (△10) 令和5年度編入学定員変更 (△5)	
経済学類	4	131	-	524	学士 (経済学)	1.07	1.03	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△4)	
学校教育学類 共同教員養成課程	4	85	-	255	学士 (教育学)	1.01	1.01	-	令和4	同上		
地域創造学類	4	83	-	342	学士 (地域創造学)	1.08	1.04	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和5年度入学定員変更 (△5)	
国際学類	4	81	-	326	学士 (国際学)	1.21	1.04	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和4年度入学定員変更 (△2)	
学校教育学類	4	-	-	-	学士 (教育学)			-	平成20	同上	令和4年度学生募集停止	
理工学域			619	3年次 40	2,476		1.08	1.03				
数物科学類	4	78	3年次 5	330	学士 (理学)	1.08	1.02	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和5年度入学定員変更 (△4)	
物質化学類	4	78	3年次 4	322	学士 (理学・工学)	1.06	1.03	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和5年度入学定員変更 (△1)	
機械工学類	4	94	3年次 10	402	学士 (工学)	1.13	1.01	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更 (△3) 令和5年度入学定員変更 (△2)	
フロンティア工学類	4	103	3年次 5	430	学士 (工学)	1.06	1.04	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更 (△4) 令和5年度入学定員変更 (△4)	
電子情報通信学類	4	116	3年次 7	362	学士 (工学)	1.07	1.03	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更 (△10) 令和4年度入学定員変更 (△10) 令和5年度編入学定員変更 (△5)	
地球社会基盤学類	4	94	3年次 7	398	学士 (理学・工学)	1.06	1.02	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和5年度入学定員変更 (△4)	
生命理工学類	4	56	3年次 2	232	学士 (理学・工学)	1.03	1.00	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更 (△2) 令和5年度入学定員変更 (△4)	
機械工学類 (旧)	4	-	-	-	学士 (工学)			-	平成20	同上	平成30年度学生募集停止	
電子情報科学類	4	-	-	-	学士 (工学)			-	平成20	同上	平成30年度学生募集停止	
医薬保健学域			384	2年次 5 3年次	1,895		1.01	1.00				
医学類	6	112	2年次 5	697	学士 (医学)	1.02	1.01	令和2 令和4	平成20	石川県金沢市宝町13-1	入学定員変更 (12) ※臨時定員増継続	
薬学類	6	65	-	330	学士 (薬学)	1.03	1.03	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更 (30)	
医薬科学類	4	18	-	72	学士 (生命医科学・創薬科学)	1.00	-	-	令和3	同上		
保健学類					796		0.99	-				
看護学専攻	4	79	3年次 4	324	学士 (看護学)	0.99	-	-	平成20	石川県金沢市小立野5-11-80	令和3年度入学定員変更 (△1) 令和5年度編入学定員変更 (△6)	
診療放射線技術専攻	4	40	3年次 3	166	学士 (保健学)	1.00	-	-	平成20	同上	令和5年度編入学定員変更 (△2)	
検査技術科学専攻	4	40	3年次 3	166	学士 (保健学)	1.01	0.99	-	平成20	同上	令和5年度編入学定員変更 (△2)	
理学療法学専攻	4	15	3年次 5	70	学士 (保健学)	0.97	-	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△5)	
作業療法学専攻	4	15	3年次 5	70	学士 (保健学)	0.91	-	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更 (△5)	
創薬科学類	4	-	-	-	学士 (創薬科学)			-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度学生募集停止	
大学全体			1836	2年次5 3年次100	7,438		-	-				

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「收容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「收容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の收容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の收容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
- 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33收容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「收容定員充足率（控除後）」には、「收容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「收容定員充足率」を記入してください。
 - なお、「收容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「收容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を赤字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、收容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<自然科学研究科 フロンティア工学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	飯山 宏一 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 光センシング論 自然科学特別研究 ジョブ型研究インターンシップ
専	教授	関 啓明 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知能システム工学 自然科学特別研究
専	教授	立矢 宏 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ロボットテクノロジー特論 自然科学特別研究
専	教授	得竹 浩 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 航空宇宙機の制御 自然科学特別研究
専	教授	小松崎 俊彦 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 数理・データサイエンス・AI発展 国際研究実践 知的構造システム特論 自然科学特別研究 ジョブ型研究インターンシップ
専	教授	田中 茂雄 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ティッシュエンジニアリング特論 自然科学特別研究
専	教授	渡邊 哲陽 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知的情報機械システム論 自然科学特別研究 超スマート社会理工学領域探索1 超スマート社会理工学領域探索2

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	飯山 宏一 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 光センシング論 自然科学特別研究
専	教授	関 啓明 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知能システム工学 自然科学特別研究
専	教授	立矢 宏 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ロボットテクノロジー特論 自然科学特別研究 次世代研究者倫理 ジョブ型研究インターンシップ
専	教授	得竹 浩 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 航空宇宙機の制御 自然科学特別研究
専	教授	小松崎 俊彦 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知的構造システム特論 自然科学特別研究
専	教授	田中 茂雄 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ティッシュエンジニアリング特論 自然科学特別研究
専	教授	渡邊 哲陽 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知的情報機械システム論 自然科学特別研究 超スマート社会理工学領域探索1 超スマート社会理工学領域探索2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 博久 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 先端化学工学特論 自然科学特別研究
専	教授	汲田 幹夫 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 エネルギー変換工学特論 自然科学特別研究
専	教授	瀬戸 章文 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ナノマテリアル 自然科学特別研究
専	教授	瀧 健太郎 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 化学機械工学特論 自然科学特別研究
専	教授	新田 晃平 ＜令和6年4月＞ 工学博士
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 高分子物性特論 自然科学特別研究
専	教授	山本 茂 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 システム制御数理 自然科学特別研究
専	准教授	辻 徳生 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 サイバーフィジカルシステム概論 自然科学特別研究
専	准教授	樋口 理宏 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 衝撃工学特論 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 博久 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 先端化学工学特論 自然科学特別研究
専	教授	汲田 幹夫 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 エネルギー変換工学特論 自然科学特別研究
専	教授	瀬戸 章文 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ナノマテリアル 自然科学特別研究 ジョブ型研究インターンシップ
専	教授	瀧 健太郎 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 化学機械工学特論 自然科学特別研究
専	教授	新田 晃平 ＜令和6年4月＞ 工学博士
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 高分子物性特論 自然科学特別研究
専	教授	山本 茂 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 システム制御数理 自然科学特別研究
専	准教授	辻 徳生 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 サイバーフィジカルシステム概論 自然科学特別研究
専	准教授	樋口 理宏 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 衝撃工学特論 自然科学特別研究
専	准教授	鈴木 隼介 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	内藤 尚 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 身体運動ダイナミクス特論 自然科学特別研究
専	准教授	村越 道生 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 聴覚メカニクス特論 自然科学特別研究
専	准教授	猪股 弥生 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 大気環境科学特論 自然科学特別研究
専	准教授	川西 琢也 ＜令和6年4月＞ 工学博士
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境システム解析学 自然科学特別研究
専	准教授	滝口 昇 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 生物システム工学 自然科学特別研究
専	准教授	茅原 崇徳 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 次世代研究者倫理 国際研究実践 エルゴノミックデザイン特論 自然科学特別研究
専	准教授	比江嶋 祐介 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 高分子分光計測特論 自然科学特別研究
専	准教授	芳田 嘉志 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 触媒反応工学特論 自然科学特別研究
専	准教授	伊藤 麻絵 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	内藤 尚 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 身体運動ダイナミクス特論 自然科学特別研究
専	准教授	村越 道生 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 聴覚メカニクス特論 自然科学特別研究 次世代研究者倫理
専	准教授	猪股 弥生 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 大気環境科学特論 自然科学特別研究
専	准教授	川西 琢也 ＜令和6年4月＞ 工学博士
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境システム解析学 自然科学特別研究
専	准教授	滝口 昇 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 生物システム工学 自然科学特別研究
専	准教授	茅原 崇徳 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 エルゴノミックデザイン特論 自然科学特別研究
専	教授	比江嶋 祐介 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 高分子分光計測特論 自然科学特別研究 次世代研究者倫理
専	准教授	芳田 嘉志 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 触媒反応工学特論 自然科学特別研究
専	准教授	伊藤 麻絵 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	軸屋 一郎 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 アドバンスト制御理論 自然科学特別研究
専	講師	平野 晃宏 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 実時間信号処理
兼任	教授	秋田 純一 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		イノベーション方法論
兼任	教授	小田 竜樹 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		数理・ナノ物質理工学特論 1 数理・ナノ物質理工学特論 2
兼任	教授	笠原 禎也 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		太陽地球系科学特論
兼任	教授	木綿 隆弘 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		技術経営論
兼任	教授	坂本 二郎 ＜令和6年4月＞ 博士(学術)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 臨床バイオメカニクス特論 自然科学特別研究
兼任	教授	菅沼 直樹 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知的自律移動ロボット 自然科学特別研究
兼任	教授	竹内 裕 ＜令和6年4月＞ 博士(水産学)
		フィールド生物学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	軸屋 一郎 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 アドバンスト制御理論 自然科学特別研究
専	講師	平野 晃宏 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 実時間信号処理
兼任	教授	秋田 純一 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		イノベーション方法論
兼任	教授	小田 竜樹 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		数理・ナノ物質理工学特論 1 数理・ナノ物質理工学特論 2
兼任	教授	笠原 禎也 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		太陽地球系科学特論
兼任	教授	木綿 隆弘 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		ビジネス・技術マネジメント戦略論
兼任	教授	坂本 二郎 ＜令和6年4月＞ 博士(学術)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 臨床バイオメカニクス特論 自然科学特別研究
兼任	教授	菅沼 直樹 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 知的自律移動ロボット 自然科学特別研究
兼任	教授	竹内 裕 ＜令和6年4月＞ 博士(水産学)
		フィールド生物学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	長谷川 浩 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク
兼任	教授	平松 良浩 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		地球惑星科学特論
兼任	教授	福間 剛士 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ナノ計測工学特論 自然科学特別研究
兼任	教授	仁宮 一章 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践
兼任	教授	松島 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士(経営学)
		次世代イノベーション開拓
兼任	教授	八木谷 聡 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		プロジェクトマネジメント
兼任	教授	米徳 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		宇宙ミッション創出概論 宇宙物理学特論
兼任	教授	由比 政年 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		社会基盤工学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	長谷川 浩 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク
兼任	教授	平松 良浩 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		地球惑星科学特論
兼任	教授	福間 剛士 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ナノ計測工学特論 自然科学特別研究
兼任	准教授	宮田 一輝 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		国際研究実践 自然科学特別研究
兼任	教授	松島 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士(経営学)
		次世代イノベーション開拓
兼任	教授	八木谷 聡 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		プロジェクトマネジメント
兼任	教授	米徳 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		宇宙ミッション創出概論 宇宙物理学特論
兼任	教授	由比 政年 ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		社会基盤工学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	井町 智彦 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	井町 智彦 <令和6年4月> 博士(工学)
		衛星機器開発特論			衛星機器開発特論
兼任	准教授	太田 明雄 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	太田 明雄 <令和6年4月> 博士(理学)
		環境・エネルギー理工学特論			環境・エネルギー理工学特論
兼任	准教授	米陀 佳祐 <令和6年4月> 博士(情報科学)	兼任	准教授	米陀 佳祐 <令和6年4月> 博士(情報科学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 現代脳計算論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 現代脳計算論 自然科学特別研究
			兼任	教授	前多 肇 <令和6年4月> 博士(工学)
					次世代エッセンシャル実践
			兼任	教授	谷内 通 <令和6年4月> 博士(学術)
					数理・データサイエンス・AI発展
			兼任	准教授	中澤 崙 <令和6年4月> 博士(理学)
					数理・データサイエンス・AI発展
兼任	講師	大谷 マーシャ <令和6年4月> BA in Psychology (米国)	兼任	講師	大谷 マーシャ <令和6年4月> BA in Psychology (米国)
		国際コミュニケーション演習			国際コミュニケーション演習

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・担当教員の見直しにより、専任教員の飯山宏一、立矢宏、得竹浩、小松崎俊彦、瀬戸章文、村越道生、茅原崇徳、比江嶋祐介の担当授業科目を変更。
- ・昇任のため、専任教員の比江嶋祐介の職名を教授に変更。
- ・専任教員に鈴木陽介、伊藤麻絵が就任。
- ・兼任教員に宮田一輝が就任。
- ・授業科目名の変更により、専任教員の木綿隆弘の担当授業科目を変更。
- ・担当教員の見直しにより、兼任教員の仁宮一章が就任辞退。
- ・担当教員の見直しにより、兼任教員に前多壺、谷内通、中澤嵩が就任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
7	5	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
13	11	1	0	25	0	14	12	1	0	27	0
(13)	(11)	(1)	(0)	(25)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
29	16	1	15			31	17	1	17		
(29)	(16)	(1)	(15)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
14	12	1	0	27	0	14	12	1	0	27	0
[1]	[1]	[0]	[0]	[2]	[0]	[1]	[1]	[0]	[0]	[2]	[0]
研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
31	17	1	17			31	17	1	17		
[2]	[0]	[0]	[2]			[2]	[0]	[0]	[2]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{25} = \boxed{108} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{25} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）（6）」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<自然科学研究科 フロンティア工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 教育方法改善委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和4年度は4回実施 令和5年度は3回実施</p> <p>c 委員会の審議事項等 教育方法改善に係る所事項審議・決定</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FDシンポジウム ・ 新任教員のための研修会 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインで実施 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年4月26日（水）新任教員研修会（17名） ・ 令和5年7月26日（水）FDシンポジウム（66名） ・ 令和6年3月25日（月）FDシンポジウム（88名） <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>FD・SD活動を通して、博士人材育成の重要性並びに大学による教学マネジメント体制及びその成果の共有、教育DXの推進を進めることで、授業改善につなげている。例えば、授業アンケートの結果を踏まえ、学生の「学び」を質保証するために何を求められているかなどをフィードバックして継続的な授業改善を実施する。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 実施（年4回、各クォーター終了後）</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 理工系学生課のWebサイトに、課程ごとの集計結果を掲載（授業担当者はWebから担当科目のアンケート結果を参照し、授業改善に活用する。）</p>

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 施設整備，教員配置，カリキュラム設計など，設置計画どおりに達成している。</p> <p>② 自己点検・評価報告書 学内規程に基づき，定期的に，全学的な自己点検評価及び部局の自己点検評価を実施することとしている。</p> <p>a 公表（予定）時期 ・自己点検を令和6年末までに公表予定</p> <p>b 公表方法 ・大学Webサイト上に公開</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 ・令和3年度に，評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受審し，適合の認定を受けた。</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [<input checked="" type="radio"/> 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。